

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
487	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Evaluation of physiological functionalities of <i>amazake</i> in mice. マウス試験による甘酒の機能性評価	
執筆者	
大浦新、鈴木佐知子、秦洋二、川戸章嗣、安部泰久	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
日本醸造協会誌、Vol.102, No.10, Page.781-788 (2007)	
キーワード	
甘酒、機能性、マウス	
要 旨	
<p>酒粕中の食物繊維が血中総コレステロールを抑制すること、酒粕の加水分解物から得られたペプチドがアンジオテンシン変換酵素を阻害し血圧上昇抑制、健忘症の発症に関与するプロリルエンドペプチダーゼを阻害することがこれまでに報告されている。また、米麴に含まれるエポキシコハク酸誘導体がアレルギーの発症や骨粗しょう症に関与するカテプシン L を特異的に阻害することが報告されている。筆者らは甘酒には酒粕と米麴の両成分が含まれていることに着目し、マウスを用いた試験を行い、甘酒の各種機能性を評価した。高脂肪食負荷マウスにおいてコントロールと比較して甘酒投与群では有意に体重、血清中性脂肪、脂肪組織の増加が抑制されており、抗肥満効果が認められた。抗肥満作用には酒粕の乾燥重量の 10% を占める食物繊維が寄与している可能性がある。高塩分食負荷マウスにおいて対照群では収縮期血圧、平均血圧、拡張期血圧のいずれの数値とも上昇したが、甘酒投与群では収縮期血圧は若干上昇したものの、平均血圧、拡張期血圧では現状維持あるいは低下傾向が見られ、血圧上昇を抑制する傾向にあることがわかった。酒粕には血圧上昇を抑制する酒粕由来のアンジオテンシン変換酵素阻害ペプチドがあり、これが甘酒の血圧上昇抑制に関与すると推察される。スコポラミンを投与した健忘症モデルマウスでプラットホーム式水迷路試験を行った場合、9 週齢のメスにおいて健忘症を抑制する効果が確認された。酒粕由来のプロリルエンドペプチダーゼ阻害ペプチドがスコポラミンの作用を打ち消している可能性がある。</p>	